

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：高木啓吾

所属：香川県立香川西部養護学校

記録日：R2年 2月10日

キーワード：実態把握 観察 調査票

【対象児の情報】

・学年

高等部2年 男子生徒

・障害名

孔脳症

・障害と困難の内容

肢体不自由があり、学習は車椅子に乗るかマットに寝た状態で行なっている。

聞こえた言葉と具体的な事物とを結びつける事は基本的に困難である。

大きな声を出したり、体を揺らしたり、また眉間にしわを寄せたりするなどの表情の変化といった本人の表出はある程度あるが、どのような意図があるかが周囲に伝わりにくい。

【活動目的】

・当初のねらい

対象生徒が周囲の人と関わり合いながら、支援者が気持ちや思いをくみ取るためのヒントを見つける。

→本人の周囲の見方を観察することによって、関わる上でのポイントを探る。

・実施期間

R元. 4～R2. 3

・実施者

高木啓吾

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

〈身体面〉

- ・常時車椅子に乗っていて移動は教師が押している。
- ・左手は顔の前で振ったり、柔らかいものを握りこんだりすることはできるが、細かい動きは難しい。
- ・側弯があり、生活の中や自立活動において、体を緩める活動が多く取り入れられている。
- ・食事は刻み食で教師が全介助して食べている。

〈コミュニケーションなど〉

- ・重度の知的障害があり、言葉の意味の理解は難しいと思われる。
- ・音楽を聴いたり動画を見たりすること、また、人に話しかけられたりすることは好きであると思われ、笑顔になることがある。
- ・イライラしていると思われる場面では、眉間にシワが寄ったり、自分の左手の人差し指の付け根を嚙んだりすることがある。
- ・支援者が表情や声、動きなどから気持ちをある程度推察しながら活動に参加している。
- ・刺激に対して首を左右に大きく振ることがある。→笑顔の時もあれば、険しい表情の時もある。
- ・食事の際に食べ物や飲み物を乗せたスプーンを近づけると、口を開けることがよくある。
- ・音楽や映像を見ると笑顔になったり、じっと見つめたりする時がある。



○笑顔もよく見られる。



○待つ時間が長かったためか、イライラしている様子。

〈その他〉

- ・学級の友達や教師からはよく話しかけられる。反応は様々だが、言葉をかけた人の方を見ることもしばしばある。

・活動の具体的内容

対象生徒の実態より、音や触覚刺激に対して、笑顔になったり、声を出したりすることがあり、楽しんでいるように見えるが、それらの見立ては正しいのだろうか。普段生活の中で、担任は表情や声、動きなどから気持ちをある程度推察していたが、他の支援者はどのように見立てをしているのだろうか。これらを確認していく事で、コミュニケーションや関わる上でのヒントが得られるのではないだろうか。

取組1

担任と保護者によるコミュニケーション行動、それに対する見立ておよび対応の記録を行い、比較・検証を行う。

保護者と担任が日々の生活の中で、生徒のコミュニケーションと思われる行動を記録用紙に記述した。

(2019. 7)

保護者は家庭において、担任は学校において、どのようなコミュニケーション行動があるか、それに対する本人はどのような意図をもっていると考えられるかといった見立て、そしてそれにどのように対応しているかをそれぞれ表形式のシートに記述した。

結果

○教師（担任）

行動	見立て	対応
首を振る(笑顔)	楽しい	「〇〇が楽しいの？」など言葉をかける
叫び声	痛い・やめて	自立活動の際は様子を見ながら続ける。その他は様子を見る
苦しそうな表情+声	やりたくない	活動量の調整・様子を見る
	暑い	保冷剤の利用、窓を開ける
手を噛む	イライラ	落ち着くのを待つ
眉間にしわ	手を離して	手を離す
	いやなことがある	予想して取り除く
手で払う	いらない(お茶・牛乳)	あげるのをやめる/別の物をあげる
手で引き寄せる	ちょうだい	給食の特定の品
首をまわして後方を見る	後ろが見たい	車椅子を向ける。

○保護者（母親）

行動	見立て	対応
胸をトントンたたく	嬉しい・楽しい時	声をかけて楽しいことを一緒に喜ぶ
胸をトントンたたく（激しく）	怒っている時	声をかけてどうして怒っているのかを考える。
首を振る（上半身）	とても喜んでいる時	首を抑える（振りすぎると危ない）
手を噛む	怒っている時	「手を噛まない」と言葉かけ
手で払う	いらない（食べ物）・やめてほしい時	あげるのをやめる
手を引き寄せる	ほしい時・早くしてほしい時	与える
眉間にしわ	怒っている・機嫌が悪い時	「怒らないで」「ニコニコ〇〇（名前）で」と声をかける
キッチンまで背ばいをする	ご飯、まだかなと見にくる	「ちょっと待ってね」と声をかける
テレビの方を見る	DVDをつけてほしい	音楽DVDをかける
激しく泣き叫ぶ	何かがとても嫌い・何かをしてほしい時	背中をさする、嫌なことを特定する

※担任により、項目の設定、表の作成を行なった。

教師と保護者から挙げられた行動で、共通しているものと共通していないものをそれぞれ、①周囲から見て一見刺激がないと思われる状態が出た行動、②周囲から見て外の刺激に対応して動きが出たもの、③周囲から見て具体的な動きを想定して、動きが出たもの（何かを要求する動き）に分類して表にまとめた。

	① 刺激非対応	② 刺激に対応しての動き	③ 周囲の具体的な動きを想定しての動き (何かを要求する動き)
共通		<ul style="list-style-type: none"> ・首を振る ・叫ぶ（苦しい表情・声） ・手を嘔む ・眉間にしわ ・手で払う ・手を引き寄せる 	
非共通	胸を叩く	<ul style="list-style-type: none"> ・胸を叩く 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの方を見る ・背ばいをする ・後方を見る

考察

・対象生徒の行動は何らかの刺激に対応しての動きが多いようである。

・本人が特定のものを見たり、背ばいをしたりするなどの行動が、関わる人に何かを期待している可能性はあるが、本人がどのようにものを見て事柄を予想しているのかは不明である。

（保護者への聞き取りのなかで、食事準備中に台所に背ばいをする事があると伺った。そして早くご飯が欲しいのかなと感じたとおっしゃっていた。）

・背ばいやテレビを見るといったことが家庭で起こる状況の類似場面が学校にはなく、非共通になったと思われる。

・胸を叩く行動は、担任には単に自己刺激を楽しんでいるように感じられたが、保護者には意図を感じられ、非共通となった。このように刺激に対して具体的に何を要求しているのかが、人によって違ったり、わからなかったりする行動が見られた。

・生活の中で給食の際、スプーンに入った食材が目に出たら口を開けたり、スプーンで飲んでいる牛乳が何回も続くと手で払ったりするようにしたりすることがある。そのことから目の前にある「刺激」に対して次の行動や起こることが本人なりに予想できる可能性がある。

・家庭だけでの行動ではあったが、生活のなかで毎日繰り返される食事などの状況がわかりやすい場面では、動きを想定した行動（要求など）がしやすいと考えられる。

・一方で、周囲の動きを想定して動きが出る場合は支援者が一方的に意味付けしている可能性もあり、「周囲の具体的な動きを想定しての動き」に関してはどこまで本人が想定できているかははっきりとはわからない。

担任、保護者の見立てを明らかにしたが、それぞれの解釈であり、生徒本人の本来の意思までは分かりかねるのが現状であった。そのことから、状況や刺激を分けて、それらの行動が出る背景をより客観的に確かめる必要があるだろうと考えた。そして、複数の支援者が、関わりをより客観的に見て解釈し、それらを共有していくことで日常生活での関わりをより良いものにする必要があるのではないかと考えた。



食事を目の前にすると、大きく口を開ける。

取組2

保護者と担任による調査票の記入し、比較・検証を行う。

「重度・重複障害児との日常コミュニケーション調査票※」（赤松・中邑 2019）を担当、保護者がそれぞれ記述した。そして研究協力者や保護者と調査票を基にし、なぜそう思ったか、他の方法はないのかといったことを話し合った。 ※ATAC2019proceeding より

結果

調査票の飲み物に関する項目の結果を以下に記す。

調査票は1. 飲み物 2. 音楽 3. 遊び道具 4. その他の項目に分けられ、下位項目でそれぞれの好みやよく使うもの、判断への自信などが問われている。今回の実践では家庭でも学校でも機会が多く、多くの解釈が可能であると思われた「1. 飲み物」に特に注目した。

内容	担任回答	保護者回答
水分補給で一番よく使う飲み物は？	お茶	麦茶
動きや表情に変化は？	ある	ある
好きだと思いますか？	どちらでもない	どちらでもない
自信はありますか？	どちらとも言えない	どちらとも言えない
他に飲ませたことのある飲み物は？	牛乳、ジュース	烏龍茶、牛乳 コーラ、りんごジュース
好き嫌いは分かりますか？	分かる	分かる
どこで判断していますか？	表情の変化	表情の変化
自信がありますか？	少し自信がある	少し自信がある
気をつけていることは？	子供の名前を呼ぶ 飲み物を見せる	子供の名前を呼ぶ 飲み物を見せる 飲み物の名前を言う 飲む量をチェックしている

・『飲み物』の好みの判断は教師も保護者も本人の「表情の変化」を基に判断している。このように共通した判断基準がある場合が見られる一方、『音楽』の好みについて担任は「表情の変化」「体の動き」を基に判断しているが、保護者は「表情の変化」「体の動き」に加え「発声」や「音楽が終わると訴える動き」も判断基準に加えていてそれぞれ相違点が見られた。

（調査票1-7/2-7）

・『その他』の項目で子供が泣いたりぐずったりするときの原因の判断についても保護者は「泣き方」「体の動き」を根拠にしたのに対し、担任は「直前の刺激、活動」を挙げていて、注目する部分が異なっていた。（調査票4-4）

考察

担任の回答を元に、研究協力者（佐野将大：香川県立高松養護学校）と協議

共同研究者：飲み物についての判断に不快しか使えていないけど理由は为什么呢？

担任：給食場面での牛乳、休憩時間での水分補給としてのお茶といったように飲み物が限定されている。

共同研究者：「不快しか使えていない。」という現状が分かったことは、コミュニケーションを良くするためのヒントになるかもしれません。例えば、口を開けるという動作は要求につながりませんか。また匂いを嗅がせるという手順も確認に使えるかもしれません。

担任：日常生活の場でそのような場面を設定してみましょう。

今までのように飲み物を見せてから飲ませるだけでなく、匂いも嗅がせて飲ませることとした。また、飲ませた後の様子をしっかりと観察し、どのような反応かを見守ることとした。

担任、保護者それぞれの回答を見比べて、期末懇談時に保護者と協議

担任：飲み物を飲む際には実物を見せているのですね。実際に飲むまでに何か反応はありますか。

保護者：あまり反応はないような、、、というかあまり反応を見ていないのかもしれませんが。

担任：給食の際には牛乳を近づけただけで、手で押し返すことがあります。また細かい気持ちまではわかりませんが、他の食べ物を鼻に近づけたらじっと見ることもあります。時間があるときに、様々な方法でこれから食べたり飲んだりするものを伝えてみるのはいかがでしょうか。

保護者：そうですね。時間があるときにならできそうですね。

※調査票 1-10 飲み物を飲ませる際に手順で気をつけていることのチェック項目

- ・ 子供の名前を呼ぶ
- ・ 飲み物の名前を言う
- ・ 飲み物を見せる
- ・ 飲む量をチェックしている。

→飲み物を飲む手順や場面を共有し、反応を引き出すヒントを家庭でも行えるように提案した。

・対象生徒への事後の関わり

協議の結果を踏まえて、今までのように飲み物を見せてから飲ませるだけでなく、匂いも嗅がせて飲ませることとした。また、飲ませた後の様子をしっかりと観察し、どのような反応かを見守ることとした。協議を経て、新たな活動を取り入れる事ができた。また具体的に家庭での対応を提案することもできた。



よく見て、匂いを嗅いで、ごくり。
一口ずつしっかり反応を見る。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

発信の意図がわかりにくい児童生徒にとって、ある程度意図を推測しながら関わる事がある。支援者間での見立てはそれぞれ刺激に対する行動については一致することも多かったが、不一致である解釈も一定数見られた。単独の見方であると、決まったポイントでしか見ていない可能性がある。今回のように、保護者や教師双方が調査票を記入し、第3者を交えてコミュニケーションを検討していくことで、視点を明確にして観察することが重要であると感じた。また、そこから新たな見方が発見でき、そこから新たな教育活動を設定できるようになる事がある。また場合によっては第3者を交えて、複数で調査票を基に、分析協議することで、新たな教育活動や関わりのポイントを見つけることができた。

・エビデンス

家庭でもいつもではないが、食事の際に匂いを嗅がせてから食べ物を挙げているとのことだった。兄弟が、マクドナルドを食べていると、背ばいで寄って行ったことがあり、もしかしたら匂いで美味しそうなのを食べているなどと思って寄って行ったのかもしれない。と保護者が話していた。また、家庭で、「〇〇（対象生徒の名前）がテレビを見て、笑っていたよ。」と兄弟から報告されるなど、刺激の後の反応について話すことが何度もあったとも話されていた。

休み時間に音楽を聴くことがあるが、調査票を基に、家庭で聞いている音楽を聴かせてみて、反応を見る場面を取り入れた。

・その他エピソード

食べ物を鼻に近づけて、様子を見ると、無反応であったり、じっと食べ物を見つめたり、様々な反応が見られる。様子を連絡帳に記載したり直接に話すことで、保護者とどのような反応があるか共有したり、どのように感じているかお互いの考えを伝え合うこともできた。

調査票により、学校でも家庭でも遊びが設定されていないことが明らかになった。休み時間の過ごし方も音楽を聴いたり、話しかけたりするだけでなく、様々な対象生徒にとっての「遊び」を設定し、実施した後の様子を保護者に伝えるようにした。家庭でできることばかりではないが、反応を見てどのような遊びが好きかを確認していく作業が本人とのコミュニケーションにつながることを確認できたのではないだろうか。

※調査票 3-1 子供が一番よく遊ぶ遊び道具 → 保護者 特になし / 担任 なし